

第72回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成30年9月27日（木） 10：30－11：30
2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、遠藤委員、松本委員
 - (2) 政府側
和泉内閣総理大臣補佐官
内閣府宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、行松審議官、須藤参事官、高倉参事官、森参事官、山口参事官
内閣官房内閣衛星調査室内閣衛星情報センター管理部長 芹澤 清
総務省大臣官房審議官（国際技術、サイバーセキュリティ担当） 泉 宏哉
文部科学省研究開発局長 佐伯 浩治
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課長 藤吉 尚之
経済産業省製造産業局宇宙産業室長 浅井 洋介
防衛省防衛政策局次長 石川 武
4. 議事要旨
 - (1) 今後の宇宙政策委員会各部会の検討の進め方について、宇宙開発戦略推進事務局及び関係府省より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。
(以下、○委員からの意見、質問、●事務局及び関係府省からの回答)
 - 軌道上で宇宙デブリの動きを観測する技術と、SSAシステムの構築は、どのような関係があるのか。
 - まず、地上からSSAシステムで宇宙デブリを監視し、危険度のあるデブリを把握・特定する。その後、より正確なデブリの位置や動きなどを把握することが重要であり、両技術は密接に連携する技術である。
 - 今後の国際宇宙探査について、具体的にどのような時間軸で国際調整を進めていく予定か。
 - 米国の計画では、月近傍の拠点開発は、2022年頃から開始すると理解している。それに向けて、来年の秋頃から、各国間の予算分担などの調整が行われていくと思う。米国では民間ベースでの議論も進んでいるが、日本としても本プロジェクトにどのような形で貢献していくか現在検討を行っている。
 - 宇宙探査関連の予算について、昨年大幅に減少したが、来年度の概算要求で、必要な額まで一気に戻していくことは難しいと思うが、2年くらいかけて必要な額までしっかり戻していくことが必要である。また、フロントローディングという考え方が大変重要であり、宇宙科学・探査を着実に進めていくことが必要である。
 - 宇宙空間からのSSAシステムについて、防衛省で調査研究が開始されることは大変良いこと

である。

- (2) 宇宙基本計画工程表改訂に向けた各部会の検討状況について、宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。

以上